

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和2年度)

2. 分野別状況(2)地域活性化総合特区 ③アジア拠点化・国際物流分野(2/4)

	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
ハイパー&グリーンイノベーション水島コンビナート総合特区(岡山県)	4.0	4.2  進捗度 ・企業集積によるコンビナートの成長と雇用の確保 224%  ・企業間連携による用役コストの低減 163%  ・水島港の輸送効率改善による貨物取扱量 71%	3.7  規制の特例等 ・地域活性化総合特別区域ガス融通事業  ・回送運行効率化事業  ・分割可能貨物輸送効率化事業  地域独自の取組 ・高圧ガス保安法に係る保安検査報告書の提出期限の延長等	4.0	<p>・評価指標(2)については、目標値に達していないだけではなく、平成29年度から年々実績値が減少する傾向にある。要因の一つとして、世界的な新型コロナの感染拡大をあげているが、この減少傾向はそれだけでは説明できないのではないかと。「事業は順調に進捗していると考えている」とあるが、どのような取り組みをすれば成果につながるのかを再度、検討すると良いのではないかと。</p> <p>・全国の製造品出荷額等に占める倉敷市の割合については、過去の実績値が十分でない点につき、新型コロナウイルス感染症が大きな理由に挙げられているが、令和元年度については同感染症の日本への影響が令和二年3月中旬以降であることを踏まえると影響はほとんどないと思われる。よって、報告書に記載のあるエチレンプラントの統合以外にも他の要因が考えられるのではないかと。</p> <p>・企業間連携による高効率・省資源型コンビナートを目指した取り組みの蓄積が成果となって表れてきている点が高く評価される。また、水島港の機能強化についても、特例措置活用で着実に実績が積み上げられている。コロナショックのような外生的なショックに対応するためのサプライチェーン効率化・多様化が国内外で重要課題となっている。このような中、本特区でも誘致を強化していく産業の多様性をいかに図るかということは課題となるだろう。本コンビナート全体でこれまでに成果を上げてきた高効率性、水島港全体の物流機能の強化の成果を活用して、環境関連産業や、製造・サービス業の研究開発拠点等、多様な成長産業をいかに誘致するかの戦略が改めて必要となるとと思われる。</p> <p>・コロナの影響もあるが、概ね順調と評価できる。ただし、「全国の製造品出荷額等に占める倉敷市の割合1.53%(H26年)→1.53%以上(R3年)」という目標はここ数年全く動いていないので、再考の余地がある。</p>